

Title	会員の継続を促進するクラブ組織のラーニングエコシステム～合気道道場での集団稽古のパーソナルネットワーク分析・質的内容分析～
Author(s)	齋藤, 誠
Citation	
Issue Date	2024-06
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	http://hdl.handle.net/10119/19330
Rights	
Description	supervisor: 神田 陽治, 先端科学技術研究科, 博士

氏名	齋藤 誠		
学位の種類	博士 (知識科学)		
学位記番号	博知第 359 号		
学位授与年月日	令和 6 年 6 月 24 日		
論文題目	会員の継続を促進するクラブ組織のラーニングエコシステム～合気道道場での集団稽古のパーソナルネットワーク分析・質的内容分析～		
論文審査委員	神田 陽 治	北陸先端科学技術大学院大学	特任教授
	伊藤 泰 信	同	教授
	西村 拓 一	同	教授
	藤波 努	同	教授
	杉山 大 輔	桜美林大学	特任教授

論文の内容の要旨

This study analyzes the mechanisms of learning ecosystems in club organizations (membership organizations) based on interests and hobbies, focusing on enhancing the sustainability of member involvement. Unlike business organizations, club organizations involve self-directed and free-choice learning by each actor. As a case study, an Aikido club, which has been successful in sustaining long-term participation, was chosen. The study analyzes the interactions and interdependencies among actors using a theoretical framework encompassing (1) co-creation of value, (2) cooperative learning, and (3) collective intelligence.

The research methodology combined personal network analysis among members during group practice in Aikido and qualitative content analysis of the actors, forming a mixed-method analysis.

The analysis revealed that freely choosing the optimal partner promotes co-creation of value. However, it also became evident that choosing inappropriate partners can lead to the destruction of this value. As a response to such issues, the learning ecosystem is suggested to be equipped with self-regulation functions.

Furthermore, for promoting long-term continuation, it was suggested that fostering intrinsic motivation through cooperative learning is crucial, and in terms of addressing value destruction, collective intelligence appears to play a role in the self-regulation function. These findings provide valuable insights for improving the learning environment and encouraging sustainable participation in club organizations based on interests and hobbies.

Keywords: learning ecosystem, value co-creation, cooperative learning, collective intelligence, aikido-dojo, somatic knowledge, membership organizations

論文審査の結果の要旨

合気道は、1920年代に個人により創始された武道であるが、他の武道（例、空手）と違い、試合がなく、勝ち負けが無い約束稽古のみをただ行う武道である（空手には、2人の選手が1対1で対戦する形式の「組手」の他、1人の選手が「演武」を披露する「型」があるが、型の場合にも勝ち負けがある）。本論文は、合気道を調査対象に、勝ち負けが無い約束稽古のみを行うだけであるのに、なぜ、合気道を続ける人が多いのかを、主に協同学習の視点で分析したものである。

約束稽古のフォーマットは世界共通であり、合気道の道場も参加者も世界中に広がっている。約束稽古は一人ではできない。指導者が見せた技を、稽古相手を変えつつ、技をかけることと技を受けることを交代しながら、繰り返し練習する。このとき熟達レベルも性別も無関係に、近くにいる人を即座に稽古相手に選ぶことが推奨されており、相手への稽古の機会の提供が同時に自分の技を磨く機会となる。そして、自身の技を磨き続けることが、合気道の武道としての目標である。

本研究は、日本の合気道道場（40名弱の規模）を調査対象に、約束稽古において、実際にどのような相手と組んで練習をしているかを、20日分調べ、ネットワーク分析（リンククラスタリング分析）した。また、合気道を長く続けている人10名（ネットワーク分析した合気道の道場に限らず、広く探した）に半構造化インタビューをしたものである。

インタビュー結果の質的分析から、合気道の約束稽古は、協同学習の内発的動機付け（技を磨き続けることから得られる満足）と、部分的な外発的動機付け（自分の会得した技を人に教えることからくる満足）を満たしており、合気道の道場が協同学習の場となっていることが、合気道に参加し続ける理由となっていると分析した。一方、ネットワーク分析から、相手を選ばず稽古すべきという約束事に厳密には従っていないことも判明した。上級者どうし、中級者どうしでは、稽古相手となることを避けていた。インタビュー結果からは、個人の優先順位（技を磨きたい、教えたい、嫌いな人・危険な人とは組みたくない等）を反映するように、約束稽古の場で陣取る位置を変える等して、稽古相手を意識的に選んでいる様子が浮かび上がった。このような自己調整を許容する合気道の約束稽古の仕組みが、合気道が協同学習の場として価値破壊を起こさない理由と考える。

以上、本論文は、合気道を（技の熟達など個人レベルで分析する視点を越えて）、道場レベルの協同学習の枠組みで調査分析したものであり、学術的に貢献するところが大きい。よって博士（知識科学）の学位論文として十分価値あるものと認めた。